

2025

6.4 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_TLO_4BDGSnSBRM0Eh3aeUQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS

温泉と健康： 腸内細菌叢から考える健康影響



Key Words

温泉

健康

腸内細菌叢

武田 美都里 特任助教

都市研究センター

京都府京都市で生まれました。京都大学大学院生命科学研究科にて修士号を取得後、京都大学大学院医学研究科にて博士号（社会健康医学）を取得しました。その後ウィーン医科大学 Max Perutz Labs にて短期研究を行い、2021 年から京都大学にて研究員として乳がんの研究に従事しています。現在も客員研究員として研究を行っています。2022 年に九州大学都市研究センターにて学術研究員に採用、その後、特任助教として主に温泉の健康効果について研究しています。他にも環境や健康に関する様々な研究を行っています。

温泉は古くから健康に良いとされ、世界中で入浴や飲用に利用されてきました。日本は、世界でもトップクラスに温泉源が多く、これらは伝統的に様々な効果があると云われています。その効果として、高血圧の改善および予防、リウマチや強直性脊椎炎による痛みの緩和、皮膚疾患の治療などが報告されています。

演者はこれまでに、温泉入浴習慣と良好なメンタルヘルスの関係について示し、さらには温泉入浴が健康な人の腸内細菌叢に影響を与えることを示しました。この腸内細菌叢の変化は泉質によって異なり、特に炭酸水素塩泉ではビフィズス菌が増えるという体に良い影響がみられました。温泉が健康に与える影響について、腸内細菌叢の観点を含めた我々の研究内容の一部について紹介したいと思います。

2025

6.11 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_CR46OfdKTB6sbNVNAXgdNA

【技術支援】九州大学 Q-AOS

匂い分子の官能評価を 分子構造から予測する



Key Words

匂い

化学情報学

人工知能

原田 祐希 助教

熊本大学 半導体・デジタル研究教育機構 化血研寄附講座

1981 年福岡県生まれ。

2007 年九州大学大学院 理学府 分子科学専攻修了 (修士)、化学系企業を経て、2016 年東京工業大学 理工学研究科修了 (工学博士)。

東北大学、鳥取大学、理化学研究所 (創薬分子設計基盤ユニット、科技ハブ産連本部) を経て現職。

化学や情報工学の手法、調香トレーニングの経験を活用して研究を進める。本研究は博士課程の頃からの研究トピックス。

匂いの分子構造と官能評価との関係は未だ明らかではない。最近、筆者らは 700 種類の単品ケミカルについて 196 の評価用語による匂い記述が収載されている公開データをもとに、分子構造をもとにした匂い記述の予測について検証した。匂い記述子の予測について、そのグループ内分子の構造多様性をもとに検証したところ、構造多様性と匂い記述子の予測可能性の間には強い相関がみられた。4 種類の分子フィンガープリントを用いて同解析を行ったところ、この傾向は保持されていた。本研究では、匂い記述子のもつ複雑さ・曖昧さの課題が浮き彫りにされた。本研究は匂いの予測を大きく前進させ、匂いのデジタル化に貢献する。

2025

6.18 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_GAM6_0WISaCCHVV51wwHUg

【技術支援】九州大学 Q-AOS

なぜ沖縄は植民地主義という文脈で語られるのか



Key Words

沖縄

植民地主義

ポジショナリティ

里村 和歌子 准教授

アジア・オセアニア研究教育機構

愛知県出身です。主婦を経て大学院に進み 2017 年に博士号（比較社会文化／九州大学）を取得しました。その後九州大学大学院比較社会文化研究院特別研究者、2022 年 4 月より同研究院／アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS) 学術研究員、2024 年 4 月より同大学院人間環境学研究院／Q-AOS 助教、2025 年 4 月より現職。主な研究テーマは主婦と労働、近年は基地をめぐる女性たちの社会運動について研究を進めています。

沖縄といえばどんなイメージが浮かぶでしょうか？ 青い海でしょうか、美味しい料理でしょうか、それとも、米軍のフェンスでしょうか？ 沖縄では 1995 年の米兵による「少女暴行事件」をきっかけに、「なぜ沖縄に基地が集中しつづけるのか」という不満が県民の間で共有され、全国に問いを突きつける大きなうねりとなりました。2000 年代に入ると、その主張に思想的な根拠として「植民地主義」という耳慣れない言葉が議論に登りはじめます。この学術的な概念がなぜ沖縄の文脈で説得力を持つのか、本セミナーではその背景と実態、そして課題について考えます。

2025

6.25 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_XLiSMj_gT5qWe7zSuAfOAAQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS

アンモニアを燃料として
カーボンニュートラルの実現に貢献

Key Words

カーボンニュートラル

カーボンフリー燃料

アンモニア燃焼

窒素酸化物

バーナー

エミッション制御

ガスタービン

反応機構

オカフオー エケネチユク チジオケ 准教授

工学研究院 機械工学部門

母国ナイジェリアで工学学士号を取得し、2010年4月に文部科学省奨学生として来日。2015年9月に工学博士号を取得し、東北大学流体科学研究所に研究員として着任。その後、2019年4月に産業技術総合研究所に転職。2022年1月に准教授として九州大学に戻り、産総研の客員研究員を兼務。研究テーマは水素やアンモニアなどカーボンフリー燃料の燃焼。アンモニア燃焼に関する研究により、2021年燃焼学会アジア太平洋支部若手研究者賞、2019年、2020年、2023年日本燃焼学会論文賞、2021年日本燃焼学会研究奨励賞などを受賞。研究・教育の傍ら、留学生の福祉に関心を持ち、2011年から2013年まで九州大学留学生会(KUFSA)文化部長、2013年から2014年まで九州大学国際化学生委員会(SCiKyu)学生委員長、2022年から九州大学アフリカ協会(ASKU)保護者を務める。

2050年までにカーボンニュートラルを実現するためには、燃焼時にCO₂を排出しないカーボンフリー燃料の燃焼技術の開発が重要です。この燃料の候補の一つがアンモニアです。現在、アンモニアは主に肥料や化学製品の原料として利用されていますが、燃料としても利用可能です。しかし、アンモニアは非常に燃えにくいいため、燃焼技術での利用は困難です。さらに、アンモニアの燃焼は、健康や環境に有害な窒素酸化物(NO_x)を大量に生成する可能性があります。

私の研究が、カーボンニュートラル社会の実現に向けたアンモニア燃焼技術の開発にどのように貢献しているかを紹介します。